

水道水源林を守る人々

国立学園小学校 四年松組

小西 麻友

「はあ、気持ちいい！」

私は、東京都奥多摩町にある小河南ダムにいました。奥多摩の山々は私を呼んでいるようでした。

私が小河南ダムにきたのは、お母さんが、「ダムカレーを食べに行こう！」



国立学園小学校

とさそったからです。ダムカレーにワクワクしながら電車に乗っていました。奥多摩町に到着して「東京にこんな豊かな自然があるんだ」と感動しました。

小河南ダムは、日本で一番大きな水道専用のダムです。私はその大きさにおどろきました。小河南ダムの近くに建っている「おどろち水と緑のふれあい館」では、ダムのしくみや水の大切さをわかりやすく学ぶことができます。いろいろな常設の催し物があり、「ダ

ムのふしぎシアター」では、ダムがどうやって作られたか、あまり知られていないダムのひみつを教えてください。「はるかな水の旅」という映像もあり、水がどのように人々に使われているかわかります。そのなかで私ははじめ水道水源林という言葉を書きました。

水道水源林は水をためるという大切な役わりがあるということ、私はこの林についてもっと知りたいと思い、水道水源林について学べるコーナーに行きました。そこで「せ

いびされている森とせいびされていない森とでどちらの方が水がはやく出るかを体験する。そうちがありました。水のかわりになつていたのがボールでした。せいびされている森ではボールはゆっくり出てきて、せいびされていない森ではボールははやく出てきました。

水道水源林は実は自然の林ではなく、人の手でせいびしたものであるということも知りました。このせいびはだれがしているのか、気になりました。

水道水源林を守っているのは、東京都水道局の人とボランティアの人達です。この人達が木を植えたり枝のせんていをしています。このことで山のさいがいよぼうにもなるそうです。

私は、そういう地道な行動が森をきれいにしてくれるのだな、とわかりました。もし守ってくれる人達がいないと森の木がくさってたおれてしまい、山がくずれてしまうおそれもあります。この人達のおかげで私達は水が



国立学園小学校

飲めるんだ、と、水道水源林を守っているみなさんに感しやしないといけないと思いました。

じや口をひねれば水が出てくるのが当然である。私は思っていたけれどこの森をせいでして守ってくれる人々のおかげで、私達のもとに水が運ばれてくることを今回学ぶことができました。この文章を読んでもくれたみなさんにもぜひこのことを知ってもらいたいと思います。